

小型船舶操縦士の資格(ボート免許)を取得するには



近年増加している水上オートバイ、フィッシングボート等を用いたレジャーに対応した資格の付与が行えるよう、航行区域を限定した5級小型船舶操縦士の資格制度が新設されました。

今回は、小型船舶操縦士の資格(ボート免許)の取得について、わかりやすく概要を紹介します。

種 類	距離・航行区域	大きさ 総トン数	代表的な 船型
5級小型船舶操縦士	1海里以内(海岸)	5トン未満	水上バイク ゴムボート 小型ヨット
4級小型船舶操縦士	5海里以内(沿岸)		
3級小型船舶操縦士			
2級小型船舶操縦士	20海里以内(沿岸)	20トン未満	小型漁船 大型クルーザー 大型ヨット 遊漁船
1級小型船舶操縦士	20海里を超(外洋)		

免許の種類は
小型船舶操縦士の海技免許には次の五種類があり、小型船舶の航行区域(距離)及び大きさ(トン数)によって資格が異なります。

受験資格は
受験日の前日までに下記の年齢に達していること。
年齢：一級・二級・三級 十七歳九月四日
四級・五級 十五歳九月四日
次の身体検査合格基準に達していること。

視力：両眼共に〇・六以上の視力を有すること。ただし両眼のうち、一眼の視力が〇・六に満たない方については、一方の視力が〇・六以上あつて、かその眼の視野が左右百五十度以上あればよいことになっており、また視力は矯正視力でもよいことになっています。
弁色力：色盲又は強度の色弱でないこと。ただし、強度の色弱であっても、航路標識の色彩を識別できればよいことになっています。

聴力：五メートルの距離で話声語等を弁別できること。(補聴器使用可)

講習・試験機関は

免許を取得するためには、学科・実技を修了し、身体検査試験に合格していなければなりません。この学科・実技の受講施設としては、JHS(ジエイエス)沖縄支部(学科・実技は国家試験免除。自動車運転学校とほぼ同じ)、ボート免許講習教室や指定試験機関、もっぱら学科・実技試験のみを行い合否の判定をする。公安委員会と類似があります。

どれくらいの日数・費用がかかるか

免許の種類により講習時間、講習内容が異なります。また、受講料も各講習の種類により差異がありますが、概ね次のとおりです。

講習の種類	講習時間		一般コース	短期集中コース	受講料(円)
	学科(時間)	実技(時間)			
5級小型講習	6	8	2～3日間	2日間	約6万5千
4級小型講習	15	12	5～7日間	3～4日間	約9万5千
1級小型講習	40	20	11～18日間	9～11日間	約20万

一般コースは仕事・通学をしながら講習に通って無理なく免許を取得するコース
短期集中コースは講習を集中的に受けて、短い期間に免許を取得する最短コース

受講・免許手続きに必要な書類は

- ・戸籍抄本又は住民票(本籍のつったもの)……………一通
- ・予備身体検査証明書(医師による証明書)……………一通
- ・写真(六ヶ月以内に撮影した無帽、正面で無背景のもの3cm×3cm)七枚

免許を受けたら五年毎の更新手続きを忘れずに

小型船舶操縦士の免許は航海及び機関両方の知識と技能を備えた船長免状です。免状交付を受けてから五年毎に更新をしなければ効力が失われますので有効期限を確認して更新手続きを受けてください。更新手続きは有効期限の二年前からできます。

失効再交付の手続きは更新を忘れて効力が失われた免許は失効再交付講習を受けてその免許の効力を回復することができます。



小型船舶に必要な資格

